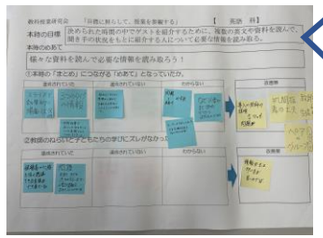
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習過程の工夫
～見方・考え方を働かせた授業づくりと協働的な学びを通して～

四万十市立中村中学校
校内研修だより
ＮＯ．４
２０２１.１０.１８

今回は校内研修の二回目の授業研究会でした。協働校事業や授業づくり講座などの学びを踏まえ、今回は本校の課題として先生方が捉えている、「本時の『まとめ』につながる『めあて』であったか」「教師の『ねらい』が生徒の学びにつながっていたか」の二点を協議の論点に置き、英語科と体育科の授業研究会を実施し、昨年度から引き続き、東京学芸大学教授の西村先生からも貴重なご指導ご助言をいただくことができました。

「英語科・体育科の授業研究会について」

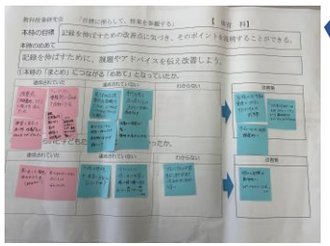
英語科



・グラフと英文を関連付けて読んでいる生徒がいた。
・場面状況が伝わりにくかったのでは？

【英語科】
①の論点について「めあて」→「まとめ」
・中間指導の教師の意図は感じられたが、場面設定など曖昧さがあった。
②の論点について「ねらい」→「生徒の学び」
・生徒の状況に応じた中間指導の入れ方の工夫
・ＡＬＴの効果的な活用
・生徒同士の議論の場の設定
・客観的な判断に基づける目的・場面の設定
→中間指導の大切さ・場面設定の検討

体育科



・生徒自身がキーワードを意識していた。
・一つ一つの動作をどのようにすれば上手くいくのか考えを出し合える発問の工夫

【体育科】
①の論点について「めあて」→「まとめ」
・タブレットの活用で具体が見える手立てがあるとよかった。
・生徒へのお手本は実技ではなくアドバイスの仕方のお手本が必要だったのでは。
②の論点について「ねらい」→「生徒の学び」
・個々の目標を具体化
・ポイントの提示
→具体の提示・目標を明確に持たせる

目的・場面・状況をいかに意識させ続けるか

◇西村先生より◇

～目的と手段～

めあてを書くことが目的になってはいないか！

・観点を決めて協議することはいいことであるが、「めあて」は何のためにあるのかについて考える必要がある。
・教師の「ねらい」が生徒に分からなければ意味がない。教師の「ねらい」をしっかり伝えることが大事である。
・「ねらい」をしっかり定めておかないと「めあて」が曖昧になる。
・教師の「ねらい」をしっかり伝えることができれば、生徒はそれを「振り返り」に書くことができる。

【英語科】
例）どんな点に注目してアドバイスを考えたらいいのだろう？
→共通したところは？
ＭＣ限定でなく、他の場面でも使える学びにしていくことが大事！

より高次な学びへ

～校内研修の進め方～

どこに焦点を当てるかで校内研のスタイルが決まる！

・卒業するときの生徒のゴールイメージを全教職員で共通理解する。
→逆向き設定　ゴールを明確にし、そのゴールに向かって各教科では、特別活動では・・・いろいろな教科のねらいを積み上げていく。
・研究は、手段ばかりではなくその目的が大事である。
・課題を整理し、複雑にせずに単純化することが大事であるが、教育は単純に一般化することができない。
→イージーオーダー・・・型（教科書）はあるが、生徒の状況に応じて授業づくりは変えていく必要がある。
・ＯＯＤＡ…観察→状況判断→意思決定→実行　指導と評価の一体化のサイクル

目的に向かって語り合い議論して成長へ